

2026 年度の鉄鋼需要見通し

2025 年 12 月 25 日
一般社団法人 日本鉄鋼連盟

我が国経済／2026 年度は内外需ともに緩やかに回復

2025 年度 景気は内需中心に緩やかに改善。個人消費は、実質賃金の改善の遅れにより緩やかな伸びに止まる。

設備投資は、DX 化や省力化への対応を中心に堅調に推移。輸出は、AI 関連需要に支えられ増勢を維持。

2026 年度 内需を中心に、緩やかな回復基調が継続する見込み。個人消費は、人手不足を背景とした賃上げの継続ならびにインフレ圧力の鈍化により実質賃金が改善し、回復が続く見通し。設備投資は、脱炭素・DX・省力化などの投資を中心に増勢が維持される見通し。世界経済は 3% 台の成長が持続するとみられているものの、中国経済の停滞、米国関税の影響などから、日本の輸出は小幅な伸びに止まる見通し。

鉄鋼需給／2026年度の鋼材内需は前年横ばい

2025 年度

鋼材内需 建設業・製造業ともに前年割れを見込む。

- ・ 建設業：土木部門では、高水準の予算を維持していたものの、人手不足や資材高などにより鋼材需要は抑制される。建築部門では、住宅が法改正に伴う駆け込み需要の反動で大幅に減少、非住宅では建設投資が停滞した。
- ・ 製造業：造船部門では、手持工事量は高水準を維持しつつも、人手不足などを背景に、起工量は前年並みと見込む。自動車部門では、国内の需要減に加え、海外でも日系自動車メーカーのシェア低下や米国関税の影響により減少を見込む。機械部門では、建機が年央に底打ちしたこともあり、横ばい圏で推移。

鉄鋼外需 前年度比減少の見込み。

粗鋼生産 前年度比減少の見込み。

2026 年度

鋼材内需 建設業・製造業ともに前年並みの見通し。

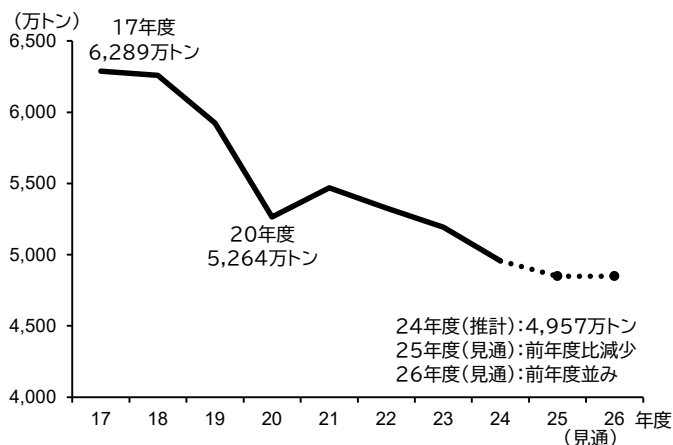
- ・ 建設業：土木部門では、引き続き建設コストの増加は見られるものの、公共事業予算措置の増加が見込まれ、微増の見通し。建築部門では、住宅が低調であった前年を上回るものの、非住宅では人手不足や建設コスト高騰等により前年割れで推移し、建築全体では微減の見通し。
- ・ 製造業：造船部門では、昨年同様のフル稼働の建造が続き、微増を見込む。自動車部門では、前年の米国の関税政策の影響や、中国 EV 車の東南アジア地域への輸出攻勢が継続するとみられ、前年割れの見通し。機械部門では、建機が前年に米国での在庫調整が一巡したことから回復基調を辿るとみられ、需要量は微増の見通し。

鉄鋼外需 前年度比微減の見通し。

粗鋼生産 前年並みの見通し。

リ ス ク 中国の経済動向ならびに米国の関税政策影響の顕在化

鋼材内需の推移



粗鋼生産の推移

